理不尽な伝統、男女合同全裸身体測定

この学校の身体測定の日は、誰もが不思議な気持ちになる。戦後の混乱期に始まったこの伝統は、医療資源が乏しかった時代に効率的に生徒の健康をチェックするために、男女一緒に全裸で測定する形式が生まれたと聞く。地域の共同浴場文化や、集団の規律を重んじる精神も影響したらしい。現代ではその必要

性に疑問を投げかける声もあるが、それでも誰も異議を唱えず、僕たち生徒は「そういうものだ」と受け入れるしかなかった。

僕はこの高校の2年の男子生徒、佐藤悠真。年に一度の身体測定の日がやってきた。この学校の伝統は、教室で男女一緒に制服を全部脱いで全裸になり、廊下を男女交互に整列して歩き、保健室で男女1組ずつ向かい合って身長と体重を測るという、常識では

考えられないものだ。普通の学校ならありえない習慣だが、うちの学校では毎年当たり前のように行われる。僕にとっては、緊張と好奇心、恥ずかしさがぐちゃぐちゃに混ざった、なんとも言えない一日だ。朝、教室に入ると、空気がいつもと違う。みんながソワソワしていて、普段とは異なる緊張感が漂っている。

担任の先生が事務的な口調で言った。「では、身体測定の準備を始めます。各自の席で

制服を脱いで、全裸になってください。その後、廊下に男女交互に整列するように。」その言葉に、教室は一瞬シーンと静まり返った。女子たちは顔を見合わせたり、うつむいたりしている。男子の中にはニヤニヤしているやつもいたが、僕みたいにソワソワ落ち着きのない奴も多かった。先生がさらに続けた。「全員、早く全裸になってください。手を動かして、さあ、始めなさい。」その言葉に、まず男子たちが一斉

に動き始めた。女子たちはまだ動かず、互いの様子を伺うようにチラチラ見合っている。先生が少しイラついた声で言った。「女子も早くしてください！ 男子がもう始めているんだから、遅れないで！」

僕は教室の後ろの席。そこからクラス全体が見渡せる。深呼吸して心を落ち着けようとしたが、周りの様子が気になって仕方ない。ブレザーを脱ぎ、シャツを脱いで、ズボンを下ろした。トランクスに手をかけた

瞬間、心臓がドキドキを通り越して爆発しそうだった。恥ずかしさと好奇心が混ざり、頭が真っ白になる。周りを見ると、他の男子も同じようにパンツに手をかけて、ためらいながらも覚悟を決めている。岡本翔太、クラスのチャラ男は、ニヤニヤしながらトランクスを一気に下ろした。彼のおちんちんはすでに半勃起状態で、太くてずっしりとしたシルエットが揺れ、ピクッと脈打った。女子の中から「キャッ！」という

小さな悲鳴が上がった。山田彩花が目を逸らして、「やだ…見せないでよ…！」と小さな声で呟いたのが聞こえた。彼女の声に、僕の胸が締め付けられるような感覚があった。恥ずかしさで顔がカッと熱くなりながら、トランクスをゆっくり下ろした。おちんちんが露わになった瞬間、彩花の視線がチラッとこっちに来た気がして、心臓がさらにドクっと跳ねた。田村、クラスの地味な男子は、震える手でパンツを下ろ

し、小さめで縮こまったおちんちんが現れた。彼はすぐに両手で隠そうとしたが、女子の視線を感じて、「み、見ないでくれ…！」と震える声で呟いた。田中玲奈が田村のおちんちんを一瞬見て、「うわ…やば…」と顔を真っ赤にして目を逸らした。彼女の反応を見ると、僕の興奮がさらに高まって、おちんちんがビクンと跳ねた。

男子全員が全裸になると、教室に異様な緊張感が漂った。先生が女子を急かすように

言った。「女子、遅れてますよ！男子はもう全裸になったんだから、早く脱ぎなさい！恥ずかしがってる時間はありません！」その声に、女子たちは顔を真っ赤にして、互いの動きを見ながら、ゆっくりと制服を脱ぎ始めた。恥ずかしさから、みんな同じようなスピードで脱いでいくのがわかった。男子たちは、次に脱ぐ女子が誰かを観察して、脱ぎそうな女子に目をロックオンしていた。僕も、隣の彩花に視線を

向けた。彼女の震える手がブレザーを脱ぐ姿に、僕の心臓がさらに速く打つ。これからクラスの女の子の裸体を拝めるなんて、本当に夢みたいだった。